

ふるさと再発見 第85回

Re:discovery Omihachiman

文化財の保存修理 ⑨

長命寺参詣曼荼羅・前編

今回は令和4～6年度に修理を行った重要文化財長命寺参詣曼荼羅（甲本・乙本・丙本の3冊）を、1月号・2月号で紹介します。

参詣曼荼羅とは、霊場参詣の案内図のような大衆向けの絵図で、絵画によって分かりやすく仏教の教えを広める「絵解き」に用いられた物です。寺院の再建に向けて勧進を行っていた僧が小さく畳んで持ち歩き、何度も広げて人々に見せながら絵解きをしたと伝わっています。境内や門前町を中心に多くの参詣者で賑わう様子や、寺社にまつわる霊験譚や縁起、周辺の地に伝わる伝承なども描かれ、独特の世界観で人々を参詣に導きました。

長命寺参詣曼荼羅は、5点の

現存が確認されています。長らく知られていた長命寺本1幅とメトロポリタン美術館にある1隻に加え、平成21年の調査で長命寺の塔頭（本寺を補佐する子院、脇寺）である穀屋寺から甲本、乙本、丙本と呼ばれる3冊が発見されました。この時の調査では、長命寺参詣曼荼羅などがいづれも小さく折りたたまれたまま見つかり、使用当時の形状がよく分かります。大きさはそれぞれ異なりますが、広げると表装を含めた全体で縦107～205cm、横160～190cmほどの大きさがあり、最も小さな甲本は縦24.0cm、横39.0cmに折り畳まれていまし



丙本墨書部分の解体



修理前の丙本（全体図）

今回実施した修理より、いくつかの工程をとりあげて紹介します。

修理工程の初期では、表装裂と本紙を解体します。長年多くの人の手によって使用されてきた中で蓄積された汚れをクリーンングし、全体の汚れを取り除くことで、見た目が綺麗になるだけでなく、酸性劣化を抑制し、カビや虫害の拡大を防ぐ目的もあります。また解体した本紙を継ぎ直す際に、修理前に見られた写真のような紙継ぎ箇所ズレが修正されました。



修理前の丙本（紙継ぎ箇所のズレ）

次号に続きます。

文（文化振興課・永福）

※写真は、堺坂田墨珠堂提供
※資料の所有は長命寺（現在は滋賀県立安土城考古博物館に寄託）

広報おうみはちまんは、各自治会を通じてお届けします。また、各学区コミュニティセンターや図書館などの公共施設、郵便局、金融機関、セブン-イレブン・ファミリーマート各店舗などに置いているほか、市ホームページやマチイロ、マイ広報紙などでもご覧いただけます。

人口と世帯 令和7年12月1日現在 ()は前月比

総数	81,772人	(- 2)
男	40,195人	(± 0)
女	41,577人	(- 2)
世帯	36,426世帯	(- 27)

※外国人住民(41か国・地域/2,386人)を含みます。

Facebook



YouTube



Instagram



マチイロ



マイ広報紙



LINE

